



頑張る高校生を紹介! 新しいラベルをデザイン! & ストロー開発!

五所川原第一高校

当市のトキあっぷる社（土岐彰寿代表）が販売している「スパークリングりんごジュース」に新たなラベルが登場しました。今回、市の「ごしょがわら輝く☆学生応援プロジェクト」を活用して五所川原第一高等学校の生徒たちがデザインを手掛け、12月6日、市役所でラベルのお披露目が行われました。



新たに「故郷に帰ってきたくなる」をイメージしてデザインされたラベル2種（左写真）

新しくデザインされたラベルは2種類あり作成されました。

1つは、宇宙から日本をズームアップしたとき、青森県がりんごで描かれているデザイン。もう1つは、十三湖の水面に夕日に見立てたりんごが浮かんでいるデザインです。

また、ラベル上部には「良いじゃないか」という意味の津軽弁「いで

ば」とシャンパンのようにおしゃれな雰囲気を持たせる意味で「Bar」を掛け合わせた「E de Bar」が描かれています。

企画立案を行った1人の福島芽依さん(2年)は「世界のどこにいても自分たちのふるさとは青森ということを強調して作った。ふるさとに自分たちが手掛けた特産品ができて嬉しい」と笑顔で話しました。



ラベルをデザインした生徒たちとりんごジュースを販売している土岐代表(左端)

五所川原商業高校

12月1日、五所川原商業高等学校商業クラブの生徒たちが市長を表敬訪問し、青森県産業教育振興会西北地区協議会高校生研究発表会で発表した活動内容を報告しました。

同クラブは、プラスチックごみが海洋に及ぼす影響に着目。SDGsの観点から脱プラスチックとして県産りんごを活用した商品開発を企画し、黒石市にある株式会社bloominの協力を得て、りんごの“食べられる”ストローを開発しました。



りんごのストローを開発した生徒たち

今月号の表紙

〔無病息災を願って しめ縄づくり〕

今月号の表紙を飾ったのは、烏森町内会（小川清康会長）のしめ縄づくりの様子です。

町内会で6月にガジキと呼ばれる丈の長い草を刈り、8月に干した後、一度しめ縄やさん俵を編む作業を行ってから、12月5日の仕上げ作業となりました。

時折雪の降る寒い中、町内会員がわらの束を3本作り、それらを力を合わせてより（よじり・ねじり）をかけ、ロープで結び、1本のしめ縄を完成させました。

小川会長は「今年のしめ縄もみんなの努力でいい出来になった。会員も高齢化しているが、来年もしめ縄づくりができるよう、みんな健康で元気に過ごせる一年にしたい」と笑顔で話しました。



しめ縄・米俵を完成させた町内会の皆さん